甲賀市の文化財⑨

甲賀の年頭行事

甲賀のオコナイ行事

甲賀の年頭を告げる伝統行事「オコナイ行事」。

古くから甲賀地方では、毎年1月から2月にかけて、村の安全や五穀に感謝し、一年の幸せを願う年頭行事として、村の祈願寺で「オコナイ」が盛んに行われてきました。

▲市原薬師堂（浄照寺）のオコナイ行事

この行事は、奈良東大寺二月堂のお水取りで知られる「修二会」や「修正会」にその源流があり、甲賀地方では主に天台系寺院の年頭行事に伝えられています。

オコナイ行事では、本尊に「掛餅」と呼ばれる大きな鏡餅や餅花など華やかに飾った作り物が仏前に供えられます。

甲賀市内でもその形や内容は実に多様ですが、頭屋（当番）が「お鏡」を搗き、夜を徹して奉仕し、神仏に供えられるのです。そしてその「お鏡」は、オコナイ行事の中心となる大切な供え物として扱われています。

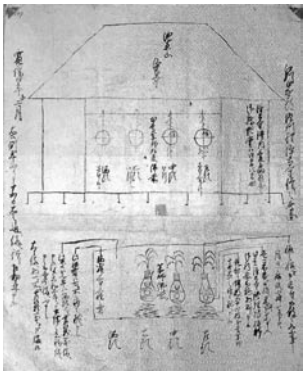
行事終了後、それらのお餅は参拝者に配られ、それを食べることによって新しい年を迎えるにあたって、一年の力が回復するなど、オコナイの餅には特別な意味が込められているのです。

甲南町深川の浄福寺で行われるオコナイ行事には、永禄10年（1567）から連綿と受け継がれてきたオコナイに関する古文書が多く伝えられています。

この中で注目されるのが寛保4年（1744）の浄土寺オコナイ絵図で、左頭・中頭・右頭・酒頭の各頭がお堂の鴨居に餅を吊り下げている様子が描かれています。

これは甲南町市原（浄照寺）や水口町杣中（東光寺）で行われるオコナイ行事で飾られる掛餅の形とよく似ており、本来、お鏡は仏前に掛けて祀るものであったことが知られます。

今日に受け継がれるオコナイの行事には、年頭にあたって村と家をつなぎ、幸福を願う庶民の行事として大切に受け継がれているのです。



▲寛保四年 浄土寺オコナイ絵図

【問い合わせ】文化財保護課 ☎86―8026 FAX86―8380

市史の小径

第6回 日本一のオコナイ文書

甲賀路の年頭行事を代表するオコナイの歴史と意味については、上欄にも書かれているとおりですが、このように行事本来の意味をさぐり、それがどう意味づけられ地域社会で伝承されてきたかを知ることは、伝統文化を後世に伝えるうえで欠くことができません。

しかし、こういった民俗行事は、主に口頭で伝承され、文字に書き残されることが少ないため、いつから行われているのかさえわからないのが普通で、歴史的価値に気づかないまま、いたずらに絶やしてしまう例があるのは残念なことです。

そんななかで甲南町深川区には、オコナイの関係資料が数多く残されている希有な例として早くから知られてきました。なかでも注目されるのは「峰の堂」と呼ばれる浄福寺と浄土寺（廃寺）で催されてきたオコナイにおいて、中心的な役割を果たす「頭屋」の名を記したものです。昨年秋に区有文書の改めて調査したところ、両寺あわせて1085枚、最古のものは戦国時代末の永禄10年（1567）に遡ることが判明しました。民間に伝わる修正会の史料として、その数は文句なく日本一といえるでしょう。

頭屋（当屋）は行事を主催し経費を負担する当番で、もとは土豪や有力農民が独占しましたが、江戸時代には本百姓層へと担い手が移り、村で生まれた子どもが順番に勤めるようになります。ここではその推移がはっきりとわかるのです。

国家鎮護の行事は、村と家の永続を祈る住民主体の行事としてなることで、今日までその生命力を維持してきたのです。茶色く変色した文書は、数百年にわたる人々の祈りと地域の変遷を語る大切な証人です。

▲最古のオコナイ文書

【問い合わせ】総務課市史編纂係 ☎ 86-8075 FAX 86-8380